



福井大学の 特色ある取組 2021

格致によりて
人と社会の未来を拓く



国立大学法人

福井大学

かくち

ひら

格致によりて 人と社会の未来を拓く

近代福井の礎を築いた松平春嶽公が書した本学所有の「格致」の額面は、同人の歴史的功績を考えれば本学の宝であると言えます。

「格致」とは「物事の道理や本質を深く追求し、理解して、知識や学問を深め得ること」という意味です。本学学生にとっては、学びと人格育成に際し、また教職員においては、研究・教育・社会貢献等で自らの指針となる言葉です。

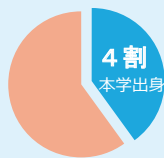
福井大学は、この「格致」を理念に掲げ、県内より世界に至る様々な地域において、そこに集う人、ならびに社会の未来を拓くことに主体的にかかわり、貢献することを目指します。

※「格致」とは中国の古典「大学」にある「格物」「致知」を短縮した熟語です。「格物」とは事物に直接触れ、「致知」は知識を完成させることなどとされます。



本学所有の「格致」の額面

多くの卒業生が福井を支えています



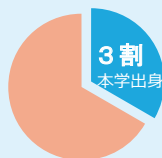
県内教員数の割合



教育学部 (旧教育地域科学部)

— 地域の次世代を
育てる教員の養成 —

○福井県の教員数
(小中高・特別支援学校)
7,380人
うち本学の卒業生数
2,971人



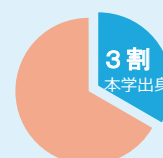
県内医師数の割合



医学部

— 地域医療を担う
医療人の養成 —

○福井県の医師数 2,057人
うち本学の卒業生数 609人
○福井県の看護師・保健師・
助産師数 9,717人
うち本学の卒業生数 363人



県内エンジニア・
科学研究者数の割合



工学部

— 地域産業を創造する
技術者の養成 —

○福井県のエンジニア・
科学研究者 13,700人
うち本学の卒業生数
4,625人

※福井県のデータは、教：2020年度学校基本調査、医：2018年医師・歯科医師・薬剤師調査、看：2018年衛生行政報告例、工：2015年国勢調査より。福井大学卒業生のデータは、2019年度時点の同窓会データより。(工学部は経営戦略課調べ)

◆ 2016年に設置した国際地域学部では、2020年3月に初めての卒業生を輩出しました。卒業生の約6割が福井県内の企業、自治体等で活躍中です。

教育学部理念

新しい時代に生きる子どもたちの未来をひらく教師をめざして

地域と協働する実践的教員養成プロジェクト

～学部教育～

探求ネットワーク事業

子どもたちと共に、人形劇、料理作り、まちかど調査隊、FFC（ふれあいフレンドクラブ：障がいのある子どもたちが対象）などの探求活動を展開しながら、子どもの主体的な学習活動を支え、組織学習力を養います。



探求ネットワーク事業

ライフパートナー事業

学生が、不登校/発達障がい児童生徒の学校や家庭を訪問し「よき話し相手」として接し、交流を深め、児童生徒の自立を側面的に援助します。共に活動する中で互いに信頼関係が生まれ、子どもの「心の支え」として活動します。この事業には、子どものこころの発達研究センターも参加しています。



教育実践研究（教育実習）

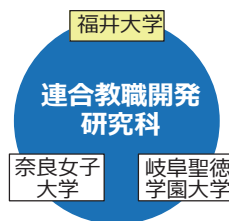
教育実践研究

学生が4年間かけて履修する総合実践プロジェクトであり、1年次から附属学園等に出かけ、実践と研究を往還しながら活動します。

～大学院教育～

特色ある3大学による「連合教職大学院」

本学を基幹校に、教員養成に優れた実績を持つ奈良女子大学・岐阜聖徳学園大学が参加して、評価の高い「学校拠点方式」を軸とした3つのコースにより、若い世代の教員や学校で核となる教員、管理職を養成します。



（学校拠点方式とは）

幼小中、特別支援学校等の学校現場（拠点校、連携校）を学びの場とする本学独自の教育方式。県域を越えた3大学が連合し、全国の約60拠点で学んでいます。

三位一体教育改革

基幹校である福井大学では、学部・大学院・附属学園の有機的な結合のもと、研究実践者教員を中核とする教員養成機能の抜本的強化を推進しています。

- ・教職大学院を附属学園に置き、附属学園を先端的教師教育研究の拠点に
- ・福井県内全ての管理職候補者が無理なく大学院で学べるシステムを構築し、学校改革マネジメントの力量向上に
- ・附属学園に教職大学院所属の「研究実践者教員」を配置

～附属学園～

義務教育学校：9年間を見通し、未来社会に求められる資質・能力を育成しています。文部科学省の研究開発指定を受け、新領域「社会創生プロジェクト」を創設し、協働探究カリキュラムの開発を行っています。

幼稚園：探索から探究へ、感覚的な学びから自覚的な学びへ、幼児教育と小学校教育の接続を踏まえ、遊びを通して学ぶ保育実践園です。海外の先生方とのふれ合い等、様々な人との出会いの場として、週4日間の預かり保育も充実させています。

特別支援学校：12か年を一貫とし、一人一人の教育的ニーズに応じた生活教育を実施しています。同時に教員はインクルーシブ教育を推進させ、通常教育の中での教育活動を支援しています。



義務教育学校での学びの様子

医学部理念

愛と医術で人と社会を健やかに

真理を探究する知への愛－

人命を尊重し人間に共感する人への愛－

医学教育の国際標準化

医学科では、世界医学教育連盟が定める教育の国際標準「医学教育分野別評価基準」に準拠した教育プログラムを編成し、高度専門職業人として国際的に通用する医師・医学研究者の育成を促進しています。

革新的画像医学教育：
高度な画像診断教育で医師の「診る」を鍛える

人体解剖画像、病理組織画像、CT、MR、PETなどの先進的臨床画像や分子イメージング画像を、臨床基礎科目および臨床実習の場で利用し、高度化・精緻化する画像診断を、十分に活用できる医師を養成しています。



画像診断教育の様子

看護学教育：
多様化する社会のニーズに応える専門的な看護力を育成

看護学科では、幅広い職業選択（看護師・保健師・助産師）ができる教育を行っています。また、地域の健康ニーズを把握し地域住民の健康を高めるための「ふくい看護論」を独自のカリキュラムに組み込むと同時に、多職種連携の在宅医療を担う看護師教育の充実を目指し、医学科学生とチーム医療を意識した「地域ケア実習」を実施しています。また、キャリアアップ実習では、将来のキャリア形成のために国内あるいは海外（英国等）の病院で、高度実践看護師体験実習を選択制で受講できます。

バーミンガム市立大学での
高度実践看護師体験実習の様子

TOPICS

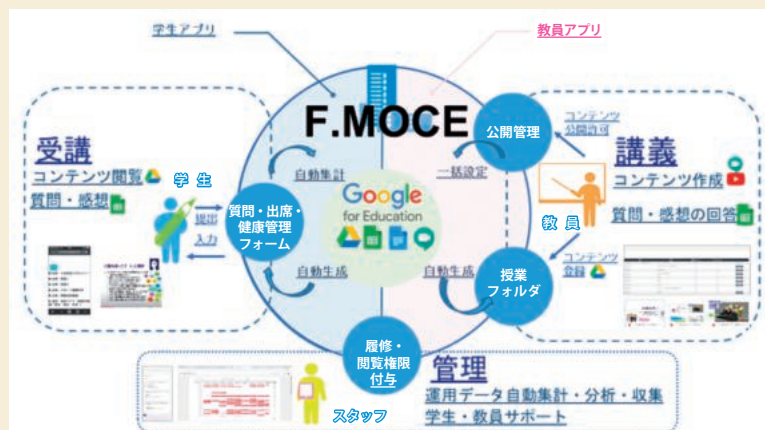
コロナ禍における新たな遠隔授業システムを開発

医学部附属教育支援センターが株式会社永和システムマネジメント（福井市）と共同で新たな遠隔授業支援システム「F.MOCE」（Fukui-Medical Online Communication & Education System）を開発しました。既に医学部の授業で導入しており、他学部での活用も検討しています。

現在、新型コロナウイルスが背景にあり、学内でシステムの使用説明会などを行うことができなかったため、教員や事務の業務効率化と、学生のシステムへの不安を軽減し、“人が本来すべき”であった授業や指導、支援に時間を割くことができるよう教員用 / 学生用のアプリケーションを独自に開発しました。

教員は教員用アプリで、講義動画やプリント資料などの講義コンテンツを簡単にアップロードし、学生に向けて自動配信、学生からの質問・感想などの集計作業も自動で行えます。さらに体温などを記録するツールも盛り込み、教職員は学生の受講状況とともに健康状態も把握できるシステムとなっています。

文部科学省が推進しているGIGAスクール構想などにも応えるものであり、恒久的に使用できるシステムとして期待できます。



遠隔授業支援システム「F.MOCE」の概要

工学部理念

夢を形にする技術者、IMAGINEERをめざして

Global Imagineerの育成

工学部では、Imagineerの育成という理念を掲げて教育改革を推進しています。

Imagineer = Imagine(心に描く)+engineer(技術者)。現在では辞書にも掲載されている英単語です。そして工学の使命は人々の安全・安心な暮らしをデザインすること。技術者が心に描くべきものの一つは、人々の暮らしです。今、想いを馳せる人々の暮らしを日本だけでなく世界へ拡張出来るGlobal Imagineerの育成に取り組んでいます。

自己変容型知性を育む創成教育への挑戦

Intelligence（知能）については、AIが人間を越える日が近いのかもしれませんが。しかし、知能指数で測れるような知能と知性（intellect）は本質的に異なります。教育がなすべきことは、どんな状況になってもしなやかに生き延びることのできる「知性」を育むこと。そうした知性を育む方法論は確立していませんが、私たちは学科・学年の枠を越えた主体的グループ活動を学科横断型の教員組織で支援する創成教育を通じて、新たな能力育成に挑戦しています。



ヒューマノイドロボットや人工知能の
実践的テーマを通じた創成教育

産業現場への即応、そして次世代産業の創成

現代の技術者には産業現場への即応と新たな時代を切り拓く能力が同時に求められます。産業界からの実践現場の提供とエキスパートの教育参加による自律型産業人材の育成プログラム（実践道場）や繊維系大学連携（信州大学・福井大学・京都工芸繊維大学）による次世代繊維・ファイバー工学分野の人材育成といった多様なプログラム等を通じて、高度専門技術者の育成に取り組んでいます。



産業界から実践現場の提供とエキスパート
の教育参加による自律型産業人材の育成
プログラム（実践道場）

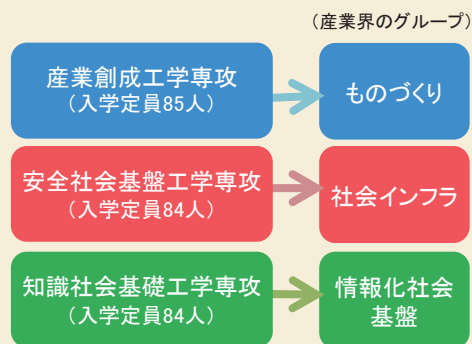
TOPICS

大学院工学研究科博士前期課程を再編

スペシャリストかつジェネラリストたる高度技術者を養成

将来の産業構造の変革に対応できるスペシャリストとしての深い専門知識と同時に、ジェネラリストとしての幅広い知識・視野を持つ人材の育成を目的に、2020年4月、大学院工学研究科博士前期課程を再編しました。

本研究科の強みを考慮した上で、工学の起源である「ものづくり」と「社会インフラ」、さらにこれからの情報化社会（知識基盤社会）を支える「情報化社会基盤」の3つの産業グループに括り、各グループに対応する分野横断型の3つの専攻に計14のコースを設置。コース指定の科目で専門性を、専攻全体の科目で幅広い知識・俯瞰的視野を習得します。



分野横断型の3つの専攻で人材を養成

国際地域学部理念

未来志向で、地域に織り込む世界へのまなざし

～国際地域学部～

多様な学びを支える3つの特色

世界と地域を繋ぐ徹底した英語教育と海外留学を通じた異文化理解教育

グローバル社会で活躍できる人材を育成するために、海外留学を含めた多様な経験の機会を提供しています。

地域の企業・自治体等と連携した地域密着型課題探求プロジェクト

福井の産業振興や地域振興の現状・課題に触れることを目的に、グループ活動を実施しています。企業や自治体等へのヒアリングを通じて、各分野の実情や課題を学び、その知見を最終報告会でプレゼンテーションします。

医学部・工学部との連携による幅広い学識を培う文理融合型教育

現代の地域社会が抱える複合的かつ具体的な問題に対して意識を深め、その解決策提案に向けて、自然科学系の基礎的な知識や方法論を学びます。

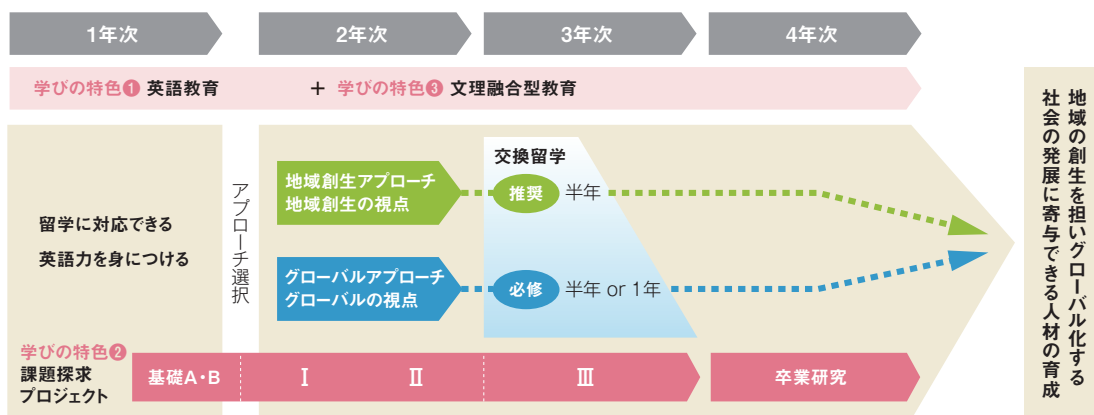


授業風景



天保2年(1831)創業の味噌蔵「米五」でのヒアリング

入学後の流れ



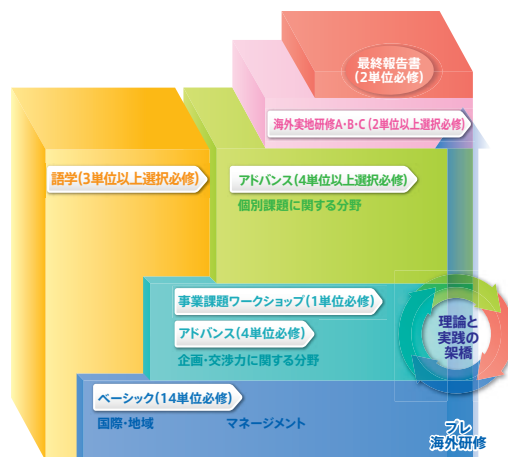
～国際地域マネジメント研究科（専門職学位課程）～

グローバル化した地域の課題解決に挑戦するリーダーを養成

福井県の高等教育環境や地域各界のニーズを踏まえた専門職大学院「国際地域マネジメント研究科」（修学期間2年）を2020年4月に設置しました。

2年間の修学の間、「地域と世界の現状と課題を知る科目」「マネジメント能力、リーダーシップの育成に必要な専門知識」「語学力・コミュニケーション能力に関する科目」を履修し、「海外実地研修」により国際感覚の醸成と履修科目の内容の体得を図ります。

こうしたカリキュラムを通じて、グローバル化の進展に伴い企業や自治体に生じる諸課題の解決に挑戦する、国際的な視野と専門知識、事業の企画・運営に必要な実践力、及び語学力・交渉力を備えた人材を養成します。



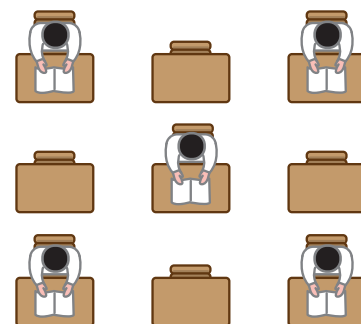
教育課程の概要

コロナ禍における教育の取組・学生支援

教育の取組

学生の通信環境への配慮や感染防止の工夫

通信環境がない学生にはWebカメラ付ノートパソコンの貸し出しや学内のパソコンルーム、Wi-Fi環境のある教室での受講を認める措置等を行っています。なお、感染防止策の徹底を図るとともに、各講義室において座席間を1m確保できるようコロナ対応収容定員を設定しています。2021年度からは面接授業で実施することを基本としますが、感染リスクの高い科目や遠隔授業による教育効果の高い科目等は、遠隔授業、あるいは面接授業と遠隔授業の併用により実施しています。また、3密を回避するため、一つの授業クラスを2教室に分割し、一方を面接授業、他方をリアルタイムの配信授業とするなどの工夫も行っています。



遠隔授業システムの整備・開発

授業は、リアルタイム型、オンデマンド型又は両者の併用で行い、2種類のLMSで遠隔授業を実施しています。また、遠隔授業支援システム「F.MOCE」（p3参照）を企業と共同開発し、教育効果や満足度の高い授業方法への改善を図っています。

学生支援

福井大学基金修学等奨学金の設立

新型コロナウイルス感染症の影響を受けてアルバイト収入に減少があった学生への経済的支援を目的として福井大学基金を活用しています。

学生同士のオンライン交流

福井大学生限定の連絡や相談の場としてオンライン交流を企画しています。

学生相談

新型コロナウイルス感染症に関する学生からのお問い合わせの総合窓口「よろず相談窓口」を開設しています。



TOPICS

教師教育の拠点

「総合教職開発本部」の設置

2021年4月、「総合教職開発本部」を設置しました。

教師という高度専門職業人の育成に関して、生涯にわたる成長に焦点をあてることで、同本部は、地方のニーズに応えながら、地域の教育を支え、地方から世界に向けて教師教育のシステムを発信します。同本部では、地域のニーズの高いギフト型発達障害児のインクルーシブ教育、現職教員の研修、海外現職教員の福井県内での学校を活用した研修システムの構築と、それを通じた福井の学校教育のグローバル化を推進していきます。



実践研究福井ラウンドテーブルの様子

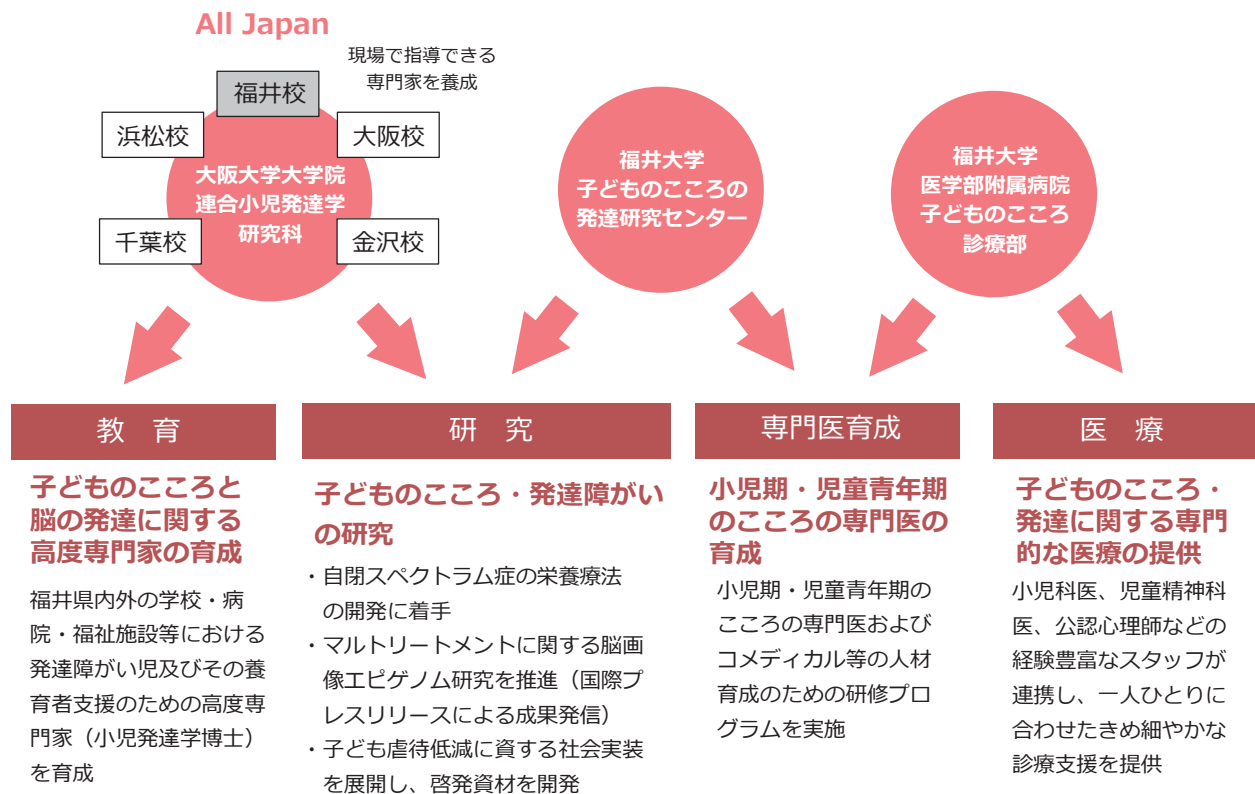
子どものこころの発達研究センター

子どものこころに取り組む

少子化が進む中、発達障がいを含むところに問題を抱える子どもが急増しており、未来を担う子ども達を守り育てていくために、急増原因の科学的究明と専門家の育成が急務となっています。

本学の「子どものこころの発達研究センター」では、分子生物学技術やイメージング技術を駆使した脳機能の解明に取り組むとともに、新たな発達障がいの診療技法の開発を目指した研究を展開しています。附属病院「子どものこころ診療部」では、小児期・児童青年期のこころの問題の診断・治療を通して、子どもの問題行動への対処法の開発や、養育者に目を向けた取組を実施し、同時に子どものこころの問題に関する地域ネットワークの構築にも力を入れています。

さらに、研究成果を教育に還元する目的で大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学の5大学連合による大学院「連合小児発達学研究科」では、All Japanの教育研究体制で、子どものこころの諸問題に従事する人材の育成に取り組んでいます。



TOPICS

子どものこころの発達研究センター 友田明美教授が 文部科学大臣表彰・科学技術賞（研究部門）を受賞しました

子どものこころの発達研究センター 友田明美教授が「虐待などのマルトリートメント予防モデル構築のための研究」の業績で令和2年度科学技術分野の文部科学大臣表彰・科学技術賞（研究部門）を受賞しました。

これまで解明されていなかった児童虐待が起因と推測される愛着障害や精神疾患が、どのような神経基盤で起きるのかに着目し、愛着障害児の脳の働きを機能的MRIで調べ、愛着障害の病態解明、客観的指標に基づく治療法（特許「愛着障害治療剤」）や診断法の開発（特許「愛着障害の判定方法」）の成果に繋がりました。



表彰伝達式を挙げる

高エネルギー医学研究センター

高エネルギー電磁波の医学利用に関する研究を推進

サイクロトロン及びポジトロンCT・磁気共鳴（PET/MRI）装置を用いて生体の機能や病態を画像化し、疾患の診断と予防に関する研究を推進しています。（米国ワシントン大学や放射線医学総合研究所他と学術提携）国内有数の一体型PET/MRI装置を用いた最先端分子イメージング研究では世界的にもこの分野をリードしています。

PET分子イメージングの包括的研究を推進

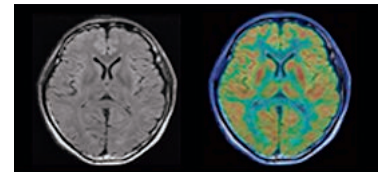
- ・新規PET薬剤等の開発研究や疾患動物モデルなどを用いた基礎研究
- ・PET/MRIを用いたがんの診断・治療に関する臨床研究
- ・脳PETやMRI画像を用いた神経変性疾患の病態研究



世界有数の最新型PET/MRI装置

画像医学研究を担う人材の育成

- ・医学、薬学、工学などの様々な学問分野における幅広い教育
- ・海外留学生の大学院教育、国際ワークショップ等による医療画像分野での国際貢献



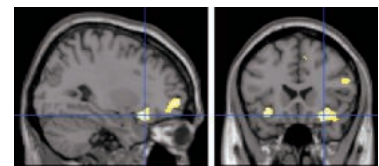
PETとMRIの融合画像

医工連携による産学官共同研究

- ・パナソニックライフインフォマティクス共同研究部門を設置し、産学官共同研究を実践

子どものこころの発達研究センター・精神医学講座との共同研究

- ・機能的MRI（fMRI）を用いた脳発達に関する機能画像研究
- ・自閉スペクトラム症の世界的脳機能画像研究機関として病態解明に貢献



学童～思春期に年齢とともに活動が変化する脳領域（カラー）

遠赤外領域開発研究センター

高出力遠赤外 / テラヘルツ波分野における世界的拠点

世界最高周波数（1テラヘルツ超え）を記録した独自開発の高出力遠赤外光源「ジャイロトロン」を応用した遠赤外領域の研究を推進しています。

遠赤外（テラヘルツ光）領域の先進的・先導的研究

- ・高出力遠赤外光源「ジャイロトロン」のさらなる高性能化
- ・ジャイロトロンの高周波・高出力電磁波を利用した電子スピンエコー測定装置の開発



電磁波発生装置「ジャイロトロン」

国内外の研究機関とグローバルなネットワークを構築

- ・国内外多数の研究機関と学術交流協定や共同研究覚書を締結し、グローバルな共同研究と学術交流を展開
- （国内外10機関との学術交流協定、国内外10機関との共同研究覚書を締結）



遠赤外技術に関する国際会議（福井大学で開催）

繊維・マテリアル研究センター

繊維・マテリアルに関する研究の推進

本学の重点領域である繊維・マテリアル分野について、学術面と地域産業の発展に寄与すべく、教育・研究を推進しています。

繊維・機能性材料工学分野の基礎研究・開発の推進

- ・学内研究プロジェクトの実施、若手研究者を積極的支援
- ・研究成果の発信（研究発表会、年報の発刊、展示会出展などでアピール）

県内外の研究機関や企業との共同研究の推進

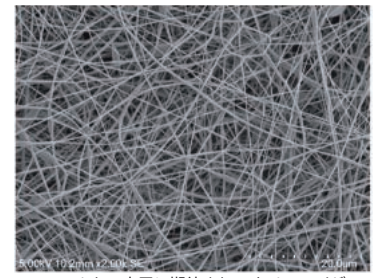
- ・専任教員が企業を回り、可能性を調査し、共同研究を強力に推進
- ・福井県工業技術センターや県内企業技術者との定期的な交流

実施中の研究プロジェクト

- ・NEDO事業「炭素循環社会に貢献するセルロースナノファイバー（CNF）関連技術開発」：研究テーマ「多様な製品用途に対応した有害性評価手法の開発と安全性評価」（産業技術総合研究所と共同実施）
- ・AMED「ウイルス等感染症対策技術開発事業」：研究課題名「ウイルス感染を防止する低圧力損失マスク・フィルターに関する研究開発」



北陸ヤーンフェアに出展



フィルター応用に期待されるナノファイバー

附属国際原子力工学研究所

原子力の安全性向上、防災危機管理の向上のために

原子力関連機関が集積する地域の特性を活用し、国内外の大学や研究機関との連携により、工学部機械・システム工学科「原子力安全工学コース」の学・修一貫教育を推進し、地域課題に対応しグローバルにも活躍できる人材の育成を進めるとともに、先進的原子力科学研究、放射線利用研究、廃炉技術研究を推進しています。

国内の連携

国際原子力人材育成コンソーシアムの構築

魅力的な人材像を掲げ、共通基盤的な教育機能を補い合い、一体的に人材を育成する体制を構築し日本の原子力に貢献する人材育成の中核を目指す

先進的原子力安全・防災・新型炉基礎研究

- ・福井県嶺南地区をモデルとした原子力防災手法の確立と計測機器等の開発
- ・新規制基準対応のための評価手法の開発
- ・廃棄物減容に係る研究
- ・もんじゅサイトの新しい試験研究炉の概念設計への協力と地元連携の構築

先進廃炉技術研究コンソーシアム

地域に根ざした既設炉の廃止技術研究と事業者ニーズに基づく人材育成

国際化

- ・独カールスルーエ工科大、ウィーン工科大学、フランス原子力庁、米アルゴンヌ研究所、ベルギー原子力研究所、ベトナム電力大、モンゴル科学技術大学、ウクライナ国立生命・環境科学大等との研究者・学生の交流
- ・廃止措置国際セミナー、さくらサイエンスプラン、国際シンポジウムの開催
- ・リモートによる海外からの講義の実施



リモートによるベトナムの大学との情報交換会
(Information Exchange Meeting in 2021)

附属病院基本理念

最新・最適な医療を安心と信頼の下で

県内で唯一の特定機能病院として高度医療を提供

「地域医療の砦」として最重症疾患患者を受け入れています。

安全で質の高い医療を提供するとともに先進医療の促進、若手医師の臨床研究への積極的参画の推進を図り、先進医療技術の地域医療への展開を目指しています。

大学病院初の北米型ER救急体制

軽症の一次救急から高度の専門的な治療が必要な三次救急まで、全ての患者を365日24時間体制で受け入れています。救急部と総合診療部の合体運営により患者のニーズに応じた救急初期診療を実践しています。



全ての患者を受け入れ
「地域医療の砦」として迅速に対応

パートナーシップ・ナーシング・システム（PNS）と「看護総合力育成プログラム」の実現

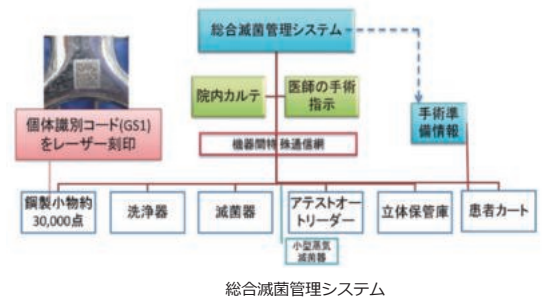
- ・本院看護部が開発した独自の看護体制（PNS）を全病棟で導入。二人の看護師がパートナーを組み、患者さんに安全で質の高い看護ケアを提供します。
- ・卒後3年間は、看護総合力育成プログラムに沿った段階別研修と育成チームによる支援体制により看護師として必要なスキルを習得します。



二人一組のチームで看護ケアを行う

労働生産性・安全性の向上と働き方改革の実現：手術器具の「総合滅菌管理システム」を開発・導入

約32,000点の手術用鋼製小物の洗浄・殺菌から術後回収まで一元管理を行い、器材のトレーサビリティを確保することで、安全性向上、ワークフローの効率化による人件費削減、労働時間の短縮による看護師らの働き方改革に貢献するなど大きな成果を上げています。これらの成果は全国的な評価を受け、「MCPC award 2019」で総務大臣賞、「看護業務の効率化 先進事例アワード 2019」で特別賞を受賞しました。



総合滅菌管理システム

TOPICS

ICTネットワークを用いたクラウド型救急医療連携システムの構築

ICTを活用し、救急隊と医療機関の連携、効率的な広域救急医療システムである「ICTネットワークを用いたクラウド型救急医療連携システム」の構築を目的とした研究開発を進めるとともに、福井県をはじめ本システムを広く展開しています。このシステムは、救急隊から直接搬送先の病院へ心電図データを送信することで、患者さんが到着する前に診断が可能になり、受入れ体制の時間短縮が図られます。

附属病院では試験導入中の石川県加賀市消防本部から県境を越えた心電図伝送及び患者の受け入れを行う等、心電図及び救急画像の伝送を伴う搬送数は40回を超え、本システムの社会実装が進んでいます。



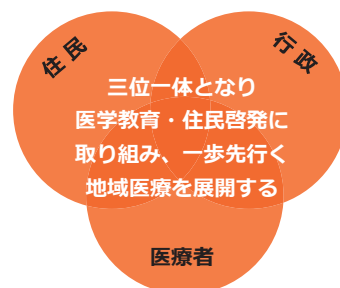
クラウド型救急医療連携システムによる県境を越えた医療連携

地域医療の担い手の育成

地域の医師は、地域が育て、地域が守る

医学部地域プライマリケア講座では、高浜町和田診療所、高浜病院等において学生や研修医教育を通じて地域医療再生の鍵となる家庭医・総合医を育成しています。

- ・外来診療をはじめ救急診療、在宅医療、健康相談
- ・医学生・研修医教育だけでなく町民の皆様への啓蒙活動
- ・医療システムの研究や健康動態の調査



福井メディカルシミュレーションセンター

県内すべての医療従事者を対象に、多様な実技トレーニングのできる研修施設を整備しています。検査・治療等の疑似体験カリキュラムを導入し、地域医療人教育を高度化します。

- ・医学生・看護学生、医師、看護師等医療従事者の実技研修
- ・多職種連携トレーニング
- ・救急対応の標準化
- ・県内医療従事者の生涯教育の充実



縫合と結紮の基本（実技）の様子

臨床教育研修センター

「次世代を担う医療人を育てるために」をテーマに、卒後臨床研修の円滑な実施を始めとし、学生・医師・看護師および医療従事者の方に技術や知識を修得する場を提供することを目的に設置されました。

- ・本院で研修する初期臨床研修医の勉強・交流の場
- ・院内外の医療従事者を対象としたセミナー・講習会の開催



初期臨床研修医向けコアレクチャーの様子

TOPICS

永平寺町立在宅訪問診療所を活用した在宅医療支援と総合診療医の育成

「かかりつけ医」機能の確保など在宅医療支援を充実させたい福井県吉田郡永平寺町と診療参加型医学実習や研修医教育など医師養成の場を求める本学が協定を結び、2019年8月に永平寺町が在宅訪問診療所を開設しました。

同診療所は本学が指定管理者として運営・管理を行い、地域の医療ニーズに応えるため、外来・訪問診療（訪問診療中の患者は24時間対応）を実施しています。

同時に、学生の実習、医師の研修を受け入れ、地域医療に欠かせない在宅・介護等の県内の慢性期医療を支える総合診療専門医等の育成と確保に努めます。



永平寺町立在宅訪問診療所



患者宅へ訪問診療に



多職種カンファレンス

産学官連携本部

産学官でイノベーションをハイブリッド推進

教員、URA、事務職「協働」による持続的産学官連携活動への取組事例

「ひとつ屋根の下」の協働

「ふくい産学官共同研究拠点」

燃料電池やめっき処理、レーザー微細加工などの研究に必要な最先端の試作・評価機器を30種類設置し、環境・エネルギーに関する共同研究を推進。さらに自前でも、新しい先端機器を続々と配置。

「オープンR&Dファシリティ」

学内の大型計測機器類を結集した研究開発施設を整備し、地域企業等と大学が連携してソリューション追求型の研究開発を推進。



最先端機器を利用したコンサルティング

イメージを「見える化」する試作

「インキュベーションラボファクトリー（ILF）」

大学のもつ技術シーズを、地域の「ものづくりの匠」の技を駆使して「試作品」を製作。市場性を問い、産業界へ橋渡し。さらに、市場の反響を見て、事業として一歩踏み出す活動も。



最先端計測機器

〈ILFにおける試作品の例〉



浅井戸・加圧給水用ポンプ

油管理計

「知」の創出を支援する専門人材

「URA（リサーチアドミニストレーター）」

新たにT-URA(TはTechnology, Trainig, Transfer等を意味する)の取組を加え、研究現場における産学の情報集積、機器分析を通じた人材育成、技術相談等もカバー、大学を基軸に知的創造サイクルを回すエンジンとして、研究者とともに研究活動の企画・マネジメントを通じ、研究の卓越性を探究します。

TOPICS

福井を超小型人工衛星製造拠点へ

福井県と超小型人工衛星の研究等に関する覚書を締結

福井大学と福井県は、超小型人工衛星の製造・開発・運用に関し協力して進めるため、2020年2月19日に超小型人工衛星の研究等に関する覚書を締結しました。

福井大学は、超小型人工衛星の製造・開発に向けた共同研究や県内企業への技術指導、超小型人工衛星製造等に必要な研修を実施し人材育成に取り組んでいます。なお、この研修においては、学生にも開放し、宇宙産業への関心を高める取組を行っています。



覚書を締結した福井大学の上田学長（中央左）と福井県の杉本知事（中央右）

21年度内の放出を目指し超小型衛星開発へ

2020年12月から、株式会社アークエッジ・スペース（東京）と共同で商業向けの超小型衛星「OPTIMAL-1」の開発を開始しました。地球観測カメラ・省電力通信装置等の多様なミッション機器を搭載する衛星のフライトモデルに着手し、フライトモデル完成後は2021年度中に、国際宇宙ステーションから放出される予定です。この衛星は超小型衛星の商品化を目指した、プラットフォームとなることが期待できます。

地域が必要とする人材を育成

地域創生推進本部における人材育成

「地域創生推進本部」では、新たな製品による豊かな生活感やライフスタイルまで創造する「ことづくり」を担う人材の養成に取り組んでいます。2020年度からは、新たに3つの「部」を新設し、5部体制により、文部科学省による「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」で培ったノウハウとネットワークをベースとし、ものづくりのイノベーションが地域の魅力につながり、人を引き寄せ、地域社会のイノベーションを生み出すサイクルを実現できる人材を養成し、一層顕在化した地方創生の諸課題への取組を推進します。

FAAふくいアカデミックアライアンス

「FAAふくいアカデミックアライアンス」は、福井県の協力のもと、県内8校の全ての高等教育機関が参加した協議体であり、福井における様々な地域課題に各高等教育機関が持つ特色ある知を活かした取組を展開していくものです。



FAAふくいアカデミックアライアンスの情報を「Fスクエア」ホームページ（FAAの概要）にて公開中です。
URL : <http://www.allfukui-cocp.jp/>

FAAの理念

1. 本県の将来を担う人材を育成・輩出する
2. 本県の人口減少対策や、地域・産業の活性化、医療、福祉、教育などの発展に寄与する

理念達成のため、4つの部会（入学者確保部会、地元定着部会、協働教育部会、教養共同化部会）を設け、それぞれにおいて活動を展開しています。

2020年度から
オンライン形式
にも対応！！



各大学等がサテライトキャンパス（Fスクエア）を拠点として地域を知るための講義を共同開講しています。

福井大学では2020年度までに「ふくい地域創生士®」187名を認定、「ふくい地域創生アワード」9名を表彰しています。

- ※「ふくい地域創生士®」とは福井大学の登録商標で、地域を学び、自分を知ることにより「地域に貢献できる人材」と認定された証です。
- ※「ふくい地域創生アワード」とはふくい地域創生士の中から、地域の課題解決に繋がる顕著な業績をあげた学生を表彰するものです。



国際貢献

国外機関と連携した国際的教育実践研究

OECDやJICAと連携し、NIE（National Institute of Education）やWALS（The World Association of Lesson Studies）と協働で、「学校拠点方式」による教員養成と教師教育を世界展開します。

2019年11月、教員研修や教員養成研修に携わっている教育行政官や教員など、アフリカ諸国にサウジアラビアを加えた7カ国から12名を受入れ、アフリカ圏の教育の質向上を支援する研修事業を行いました。



少人数グループでのディスカッションの様子

エジプトの教員の能力強化を目的とした人材育成事業

連合教職大学院では、エジプトの教員の能力強化を目的とした「エジプト・日本教育パートナーシップ」の人材育成事業により、2018年度からの4年間で約680名の教員を研修員として受入れます。

2020年1月には第3回目のプログラム受講生40名が本学を訪れ、教育学部附属義務教育学校や福井市公立学校で学校行事や授業を参観。「児童らによる給食準備」「朝の会」など日本独特の教育活動を中心に学びました。この他、本学教員がエジプトの現地を訪れ、帰国後の取組をフォローアップするなど、包括的な支援を行っています。



附属義務教育学校での参観

就職率13連覇

教育学部
98.8%医学部
98.1%工学部
95.6%国際地域学部
98.0%

高い就職率！

大学通信調査「全国大学実就職率ランキング2020」において、本学は複数学部を有する国立大学では13年連続全国1位となりました。

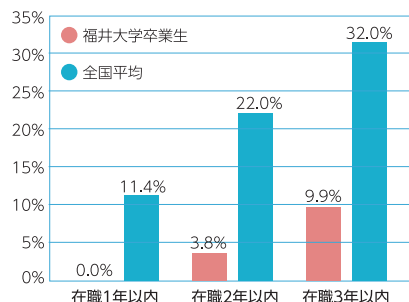
低い離職率！

在職期間3年以内の離職率（9.9%）は全国平均（32.0%）を大幅に下回っており、企業からはその高い定着率が評価されています。

実就職率ランキング[※] 複数学部を有する国立大学

	1位		2位		3位	
	大学名	就職率	大学名	就職率	大学名	就職率
2020	福井大学	97.9	九州工大	95.0	群馬大	94.7
2019	福井大学	97.0	岐阜大	94.4	九州工大	94.0
2018	福井大学	97.3	岐阜大	94.8	三重大	94.0
2017	福井大学	97.4	九州工大	95.5	秋田大	93.9
2016	福井大学	96.8	九州工大	95.8	三重大	94.3
2015	福井大学	96.1	群馬大	94.0	九州工大	93.9
2014	福井大学	96.7	九州工大	94.4	東京工大	93.8
2013	福井大学	95.8	名古屋大	94.2	東京工大	93.5
2012	福井大学	95.8	九州工大	95.3	名古屋大	93.5
2011	福井大学	94.7	岐阜大	93.1	名古屋大	93.0
2010	福井大学	94.3	九州工大	93.9	東京工大	91.3
2009	福井大学	97.2	九州工大	95.8	岐阜大	94.8
2008	福井大学	95.3	九州工大	94.6	岩手大	90.4

※実就職率は大学通信の「全国大学実就職率ランキング」実就職率=就職者数÷(卒業者数-進学者数)



全国平均については、平成28年(2016年)3月卒業者のデータを掲載している。
厚生労働省HP資料 新規学卒就職者の在職期間別離職率の推移 (2019年10月21日公表)
<https://www.mhlw.go.jp/content/11652000/000557456.pdf>

福井大学が就職に強い理由 ～キャリアセンター（キャリア支援課）の取組～

社会的に自立し、社会を創造していける人材育成に力を入れ、キャリア・就職支援活動を強力にサポート。福大生は就職先から人間力・学力ともに高く評価されています。

1. 学生を支え、企業を応援する充実した就職支援・採用支援体制

年間50回以上の就職ガイダンスや学内合同説明会を実施しています。コロナ禍の現在は、WEBを活用した支援も積極的に行っています。

2. きめ細やかな就職支援活動の実施

- ・専属のカウンセラー（3名）が常駐して、就職相談・履歴書添削・面接練習などを行っています。
- ・各学部・大学院の就職担当教員との強い連携による支援体制を整えています。
- ・企業・団体の求人情報をはじめ、先輩の就職体験記をWEBで確認できる本学オリジナルの就職支援サイト「キャリアサポートシステム」を運用しています。



キャリアカウンセラーによる就職相談

3. 積極的なキャリア形成

学生が自身のキャリアについて深く考え、自立した人間として成長することを目的として、共通教育科目「キャリアデザイン」を開講しています。

TOPICS

就職率No.1 福井大学キャリア支援課をモデルにしたNHKドラマ「シューカツ屋」が放送

“国立大学就職率13年連続No.1”という高い就職率を誇る福井大学。学生たちの就職活動を支えるキャリア支援課をモデルにしたドラマ『シューカツ屋』が、2020年2月にNHK BSプレミアムで放送され、好評につき10月には地上波で再放送されました。福井県内各地でロケが行なわれ、主演の水川あさみさんを始め豪華俳優陣が福井大学文京キャンパスでロケを行ない、福井大学の教職員や学生もエキストラとして多数参加しました。



福井大学キャンパス内の撮影セット前で

THE世界ランキング

THE世界大学ランキング日本版2020

医学部をもつ中規模総合国立大学で※

6位にランクイン

※国立大学法人評価におけるG・Hグループ 25校中の
順位：福井大学調べ

THE世界大学ランキング世界版2021

世界の高等教育機関の**上位6%程度**となる

1001位+グループにランクイン

世界三大ランキングのひとつとされる、英国の教育専門誌タイムズ・ハイヤー・エデュケーション（THE）を運営するTES Global社が作る「THE世界大学ランキング」では、教育力に焦点を当てた日本版ランキングも発表されています。

本ランキングは、世界の大学進学・留学希望者の大学選びに活用されています。

THE世界大学ランキング日本版HP
<https://japanuniversityrankings.jp/>

福井大学基金 ～羽ばたけ基金®～

福井大学基金では、新型コロナ学生支援及び人材の育成・輩出や地域社会の継続的発展のためのご支援をお願いしております。

皆様のご支援・ご協力をお願いいたします。
(クレジットカード決済でのお申込が便利です。)

「古本募金」「ふるさと納税」によるご寄附も
よろしくをお願いいたします。



◆古本募金は、寄附者の方からご提供いただいた古本等を業者が換金し、その金額が福井大学基金に寄附されるものです。(送料等のご負担はございません)



◆福井県のふるさと納税「新型コロナ学生支援」「県内大学の魅力向上応援」を活用したご寄附については、「ふるさと福井応援サイト」ホームページをご覧ください。

※詳細は、福井大学基金のHPをご覧ください。
<https://www.u-fukui.ac.jp/kikin/>



灯りで心に感動を～キャンパスイルミネーション～



思い出に残るような感動を与えるイルミネーションを、学生自らが企画しています。毎年様々な技術や工夫を凝らした行灯やオブジェを用いて、福井大学ならではの「ものづくり」の取組が行われています。

★開催時期

【文京キャンパス】毎年10月上旬～10月中旬
【松岡キャンパス】毎年10月中旬～10月下旬

★詳細はHPをご覧ください

https://www.u-fukui.ac.jp/cont_life/event/illumination/



研究者総覧をご存じですか？

大学のHPから福井大学に所属している研究者（教員）情報を検索できます。所属組織・職名・氏名に加え、キーワードや研究分野検索もできます。是非ご活用ください。

<https://r-info.ad.u-fukui.ac.jp>



福井大学の特色ある取組2021

発行 福井大学経営企画部経営戦略課

発行日 2021年4月1日

ご意見・ご質問について、お気軽にお寄せ下さい。

〒910-8507 福井県福井市文京3-9-1

Mail: koho@ad.u-fukui.ac.jp

HP: <https://www.u-fukui.ac.jp/>

